

						石川県立金沢二水高等学校	
重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備 考
1. 個々の生徒の学力をより一層高めるために教科指導の質的向上に努めるとともに、あらゆる学習活動を通して論理的思考力や表現力の伸張を図る。	① 生徒の学習意欲を高め、学力をつける授業の改善に努める。	教務課 各教科 各学年	教師は、熱意を持って授業に取組、教材研究、授業研究等を行って、日々指導法の改善に努めている。	【満足度指標】 理解できる授業が展開されている。	理解される授業が展開されている。 A よくあてはまる B おおむねあてはまる C あまりあてはまらない D あてはまらない	A + B が 80 % 未満の場合、改善を検討	7 月・12 月に調査する。 (生徒による授業評価)
		教務課 各教科 各学年	授業展開を工夫し、授業を受けることで、学力が向上していると実感できるように努めている。	【満足度指標】 授業を受けることで学力が向上する。	学力が向上している。 A よくあてはまる B おおむねあてはまる C あまりあてはまらない D あてはまらない	A + B が 80 % 未満の場合、改善を検討	7 月・12 月に調査する。 (生徒による授業評価)
	② 習熟度別授業を生かし、個々の生徒の潜在する能力を引き出す。	教務課 数学科 英語科	2 年数学、3 年数学・英語において習熟度別授業を実施し、個々の生徒の学力向上をはかっている。	【満足度指標】 習熟度別授業は授業の理解と学力向上に有効である。	習熟度別授業は授業が理解しやすく学力向上に役立っている A おおいに役立っている B まあまあ役立っている C あまり役立っていない D 役立っていない	A + B が 80 % 未満の場合、改善を検討	7 月・12 月に調査する。 (生徒による授業評価)
	③ 授業見学月間を中心に積極的に授業参観を行って自らの授業力向上に努める。	教務課 各教科	授業見学は年間を通じて実施されており、特に 6 月と 11 月は他教科の見学を含めた推進月間としている。	【努力目標】 授業見学を 12 月までに多く行うようにする。	教員の授業見学を行った回数が A 4 回以上である B 3 回である C 2 回である D 1 回以下である	A + B の人数が 80 % 未満の場合、改善を検討	7 月・12 月に調査する。 (教員アンケート)
	④ 英語力の向上をめざす授業を展開し、英語検定の 2 級・準 2 級取得者の増加をはかる。	SH 企画室 英語科	平成 19 年度は英語検定 2 級合格者 198 名、準 2 級合格者 293 名である。	【成果指標】 1 年次に英語検定準 2 級未取得者全員受験、90 % の取得、2 年次に 2 級全員受験、卒業までに 30 % の取得をめざす。	生徒の資格取得が目標数の A 90 % 以上である B 80 % 以上である C 70 % 以上である D 70 % 未満である	D であれば、対応策を検討	3 月に調査する。

						石川県立金沢二水高等学校	
重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考
2 生徒が高い進路目標を持ち、目標に向かって邁進していくことのできる進路指導体制の確立をはかる。	① 1 年は職業研究を中心に企業施設訪問・大学見学等、2 年は大学研究を中心に大学出張講義、インターンシップ等の体験学習をおこなう。また全学年で進路講話を実施する。	進路課 教務課 各学年	キャリアガイダンスの充実を図り、生徒が文理選択を含め適切な進路選択ができるように指導を徹底させる必要がある。各取組をととして生徒が進路について真摯に考える機会となっている。	【満足度指標】 各取組が生徒が進路選択を真摯に考える機会となっている。	各学年の取組が自分の進路選択にとって真摯に考えるための有効な機会になっている。 A よくあてはまる。 B おおむねあてはまる C あまりあてはまらない D 全くあてはまらない	それぞれについて A + B が 8 0 % 未満の場合、改善を検討	事業終了後、各学年でアンケート調査をおこなう。 (生徒アンケート)
	② 有効な資料を使った個人面談を大いに活用し、生徒に適切な進路指導をおこなう。	進路課 各学年	担任が、進学指導資料の効果的な活用ができ、生徒が適正な受験校の決定ができるように支援する進路指導に努めている。	【努力指標】 個人面談を活用して生徒の進路指導が適切に実施されている。	担任による個人面談を通して進路指導が適切に実施され、効果が上がっている。 A よくあてはまる B おおむねあてはまる C あまりあてはまらない D 全くあてはまらない	A + B が 8 0 % 未満の場合、改善を検討	7 月・12 月に調査する。 (教員アンケート)
	③ 進路指導に関する教職員校内研修をより充実させ、指導力向上と生徒・保護者への情報の提供をおこなう。特に保護者に対しては H P も活用し、情報提供に努める。	進路課 各学年	全体研修、小論文研修、学年進路検討会などの教員研修を実施しているが、生徒への還元、保護者への情報提供という面ではやや不十分である。	【満足度指標】 生徒に対する進路指導と生徒・保護者への進路情報の提供が適切におこなわれている。	進路指導・情報提供が適切である A よくあてはまる B おおむねあてはまる C あまりあてはまらない D 全くあてはまらない	A + B が 8 0 % 未満の場合、改善を検討	7 月・12 月の生徒生活実態調査・保護者アンケートで調査をおこなう。
	④ 生徒に高い進路目標を持たせ学習に意欲的に取り組ませることにより、学年当初と学年末における校外模試全国偏差値の高い生徒数の維持、増加をはかる。	進路課 1 学年 2 学年	校外模試結果を比較すると学年や教科により成績上位者人数を維持できていない年度がある。	【成果指標】 成績上位者に対する進路指導、教科指導の徹底により、校外模試における成績上位層が増加している。	1 年と 2 年で、1 月実施の校外模試における全国偏差値 60 以上の生徒数は、7 月に実施校外模試結果に比べ A 1 2 0 % 以上となった B 1 0 0 % 以上となった C 8 0 % 以上となった D 8 0 % 未満となった	C ・ D の場合、結果を分析し、改善策を検討	各学年で 2 月に調査する。
	⑤ 難関大学訪問等に積極的に参加させ、志望校別補習を充実させるなど、上位層に対する指導体制を確立する。	進路課 各学年	本校生徒の高い資質を十分に伸ばし切れていない面がある。平成 19 年度の国公立大学合格者は 226 名、難関大合格者は 36 名、金沢大学合格者は 63 名である。	【成果指標】 国公立大学合格者 250 名 難関大合格者 50 名 金沢大学合格者 100 名	生徒の合格者数が目標数の A 9 0 % 以上である B 8 0 % 以上である C 7 0 % 以上である D 7 0 % 未満である	C 以下が 2 つ以上であれば、対応策を検討	年度末に調査する。

						石川県立金沢二水高等学校	
重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備 考
3健康の促進と体力の向上を図りながら、学習時間を確立し、品位ある言動ができる自己管理能力を育成する。	①学習時間調査を定期的に実施し、結果を教職員に周知させ、ホーム担任・教科と連携して家庭学習課題等を検討し、学習時間の増加をはかる。	進路課 各学年 各教科	学習習慣の定着がまだ不十分な生徒もいる。平成19年度4月～1月の平日平均家庭学習時間の目標達成率は1年79%、2年59%、3年91%である。	【努力指標】 平均家庭学習時間が1年3時間、2年3時間、3年5時間以上。	年間を通して目標時間の達成率が A 95%以上である B 85%以上である C 75%以上である D 65%未満である	C以下の場合、教科内での指導法や家庭学習課題等を学年ごとに検討	毎月1回1週間連続して生徒の実態を調査する。
	②品位ある服装容儀を確立するために教職員の一致した指導と生徒の自覚を求める。	生徒課 各学年	生徒の自己評価は高いが、教員の評価は高くなくより高い目標を持っている。	【努力指数】 品位ある服装をし、日常の挨拶がしっかりできる。	生徒のみだしなみや挨拶には好感が持てる A よくあてはまる B おおむねあてはまる C あまりあてはまらない D 全くあてはまらない	A+Bが80%未満の場合、改善を検討	7月・12月に調査する。 (生徒・教員アンケート)
	③規則正しい生活習慣が身につくよう朝の5分前登校、夕方7時の完全下校を守る。	生徒課 各学年	遅刻は2年前より激減し、その状態を維持しており、教員、生徒の自己評価も高い。しかし、指導をしなくなるとともに戻ることも考えられ継続指導の必要がある。	【努力指数】 5分前登校と7時間全下校を守る。	生徒は朝の5分前登校、夕方7時の完全下校を守っている A よくあてはまる B おおむねあてはまる C あまりあてはまらない D 全くあてはまらない	A+Bが80%未満の場合、改善を検討	7月・12月に調査する。 (生徒・教員アンケート)
	④様々な読書活動を通して生徒の読書意欲を向上させ、図書館の貸出冊数の増加をはかる。	図書課 各学年	平成19年度の貸出者数は12月で471名（全生徒の40%）で前年よりは増加したが、全員読書の取り組みを除くと、まだ図書室の本を借りていない生徒が多い。	【成果指標】 より多くの生徒が図書室を利用し、貸出者数が増加している。	図書貸出生徒の割合が前年度より A 10%以上増加した B 5%以上増加した C ほとんど変化しなかった D 5%以上減少した	C以下の場合、対策を検討。	7月・12月に調査する。
	⑤生徒が自ら健康課題に積極的に取り組み、体力の向上をはかる。	保健体育科 生徒課	部活動や授業における生徒の基礎体力・持久力向上のためにサーキットトレーニングを導入する等、取り組みを工夫している。	【成果指標】 体力テストで前年度の全国平均を上回る項目を増加させる。	体力テストにおいて前年度全国平均値より高い項目の数が男女ともに9項目中の A 6項目以上 B 4～5項目 C 2～3項目 D 2項目未満	男女それぞれについて、C以下の場合に対策を検討。	2年生において、9月に調査する。

